

平成26年度障害者支援施設光陽荘事業報告

第1 概況

光陽荘は、社会福祉法の福祉サービスの基本的理念にいう個人の尊厳の保持を旨として、利用者がその有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう、利用者のニーズも踏まえた良質かつ適切なサービスの提供に努めている。

この基本方針に基づいて、利用者自身が日常生活を送る上で「やりたい活動」の選択ができるよう、多様なメニューを用意し事業を進めているが、26年度は、活動の安定した継続を図りながら、障害の重度化・高齢化を踏まえ、落ち着いた雰囲気で行なえること、能動的に活動参加している利用者については自己実現ができることを目標とした。

音楽演奏や創作活動などは完成度も高くなり外部からの依頼も年々増え、自他のイベントに積極的に参加している利用者には自己実現の機会となっている。

一方で、活動への参加が受動的になりがちな利用者に対しては、ほぼ毎日実施しているリラクゼーション（「ぼかぼか農園」の活用）と、25年度より本格導入したミュージックケアの2本柱で、刺激のある日常生活に努めている。これらの活動を通し、利用者の心のケアやコミュニケーションの円滑化につなげている。

日々提供するこれらの活動とは別に実施している随時の活動や個別の支援についても、ケアプラン（個別支援計画）等に基づき一人ひとりのニーズにきめ細かく応えることができた。

また、相談支援事業（光陽荘障害者相談センターすてっぷ）については、開設から1年余りが経過し軌道に乗せることができた。光陽荘利用者のサービス等利用計画案の作成に加え、他事業所とも連携し、在宅障害者のニーズにもできる限り応えた。

なお、2月に施設内で、インフルエンザの集団発生があった。利用者については広範囲で発症してしましたが、発症直後または疑いの段階で速やかに受診を実施し重症に至るケースは皆無であった。職員については、嘱託医に相談しタミフルの予防的服用などにより拡大防止に努めたところである。

さらに、26年度については、東遠地区施設連絡会及び東遠地域自立支援協議会の当番施設として両会を運営するとともに、事業として「東遠地区保健福祉研修会」を企画し、約200名の参加を得ることができた。また、「東遠地域広域障害福祉計画」の委員会の構成メンバーとなり、菊川市・掛川市・御前崎市における障害者福祉の課題の提言・調整を行った。

経営収支の状況では、自立支援費等収入が、ほぼ前年度並に確保され、一方人件費についても前年度と同様であったことから、他会計への繰入金支出を除くと60,000千円を上回る収支差額を確保できた。

第2 全体の状況

1 利用状況

施設入所者数は、年間を通して、光陽荘50人、グループホームたんぼぼ5人の定員を満たしている。事業ごとの利用率をみると、夜間の施設入所事業が98.1%、日中の生活介護事業が113.5%、短期入所事業が62.7%、たんぼぼの共同生活援助事業（グ

ループホーム)が99.6%であった。施設入所と生活介護の利用率の若干の低下は、入院日数の増によるものである。

1 利用実績

年度	施設入所		生活介護		短期入所		グループホーム	
	定員	利用率	定員	利用率	定員	利用率	定員	利用率
H25年度	50	99.0%	50	114.3%	4	58.4%	5	99.5%
H26年度	50	98.1%	50	113.5%	4	62.7%	5	99.6%

2 経営状況（経常活動収支）

生活介護、施設入所支援及び短期入所の介護給付費等の自立支援費等収入は334,790千円で、その他収入を加えた収入合計は339,525千円となり、前年度を934千円下回っている。＜数値はいずれも決算見込み。以下、同じ。＞

一方、支出合計は、283,384千円と、前年度に比べ4,000千円余の増となったが、これは会計間繰入金の支出の増加が主な原因であり、支出の多くを占める人件費については前年度とほぼ同様となった。

グループホームたんぼぼについては、夜間支援体制加算の引き下げに伴う自立支援費等収入の減により、収支合計で3,000千円余の減となった。

<光陽荘>

収入

(千円)

区 分	平成26年度	平成25年度	増 減
自立支援費等収入	334,790	334,602	188
その他の収入	4,735	2,762	1,973
会計間繰入金	0	3,100	△3,100
計	339,525	340,464	△939

支出

(千円)

区 分	平成26年度	平成25年度	増 減
人 件 費	191,785	191,800	△15
事務費・事業費等	81,935	82,692	△757
会計間繰入金	9,664	4,800	4,864
計	283,384	279,292	4,092

<たんぼぼ>

収入

(千円)

区 分	平成26年度	平成25年度	増 減
自立支援費等収入	13,278	16,389	△3,111
その他の収入	10	8	2
計	13,288	16,397	△3,109

支出

(千円)

区 分	平成26年度	平成25年度	増 減
人 件 費	4, 8 9 6	5, 5 0 5	△6 0 9
そ の 他 の 支 出	2, 0 8 5	1, 4 3 8	6 4 7
計	6, 9 8 1	6, 9 4 3	3 8

3 職員の状況

生活介護サービス費における人員配置体制加算で最も高い区分である「1. 7 : 1」を満たす職員配置基準の確保に努めた。26年度中に育児休業に入っていた4名の介護職員の内3名が育休を明け復帰している。職場復帰後でも働きやすい職場の環境作りに努め、仕事と子育ての両立を応援した。

平成26年度末の職員数は56名で、そのうち介護職員は常勤28名と非常勤14名、看護職員等は非常勤6名である。

(平成27年3月31日現在) (人)

区 分	事 務 室		介護職員	医務室	調理	計
職 名	施設長 (理事長) 事務長 (事務局長) 副施設長 (介護部長) 相談支援専門員 (主幹)	生活相談員 事務室員	主任 副主任 一般	看護職員 歯科衛生 士	管 理 栄 養 士	
正 規	4	2	2 8		1	3 5
非正規		1	1 4	6		2 1
計	4	3	4 2	6	1	5 6
26年同期	4	3	3 5	5	1	4 8

*育児休業者(正規1名)は除く。

4 施設整備等の状況

26年度に大きな施設整備等はなかった。

5 その他

(1) 職員研修(資料 28・29)

研修への積極的参加を促し、研修結果を職員全体会議等の場において報告を求め、広く職員の資質の向上及び利用者支援・サービスの充実に資することができた。外部研修や研究大会についてもできる限り積極的に参加し、多くの職員が知識や技術を深めることができた。また、関係団体の永年勤続表彰に当該職員を推薦し、職員の仕事に対するモチベーションや達成感を高めた。

(2) 会議の開催

全職員に対する施設の基本方針及び重要案件の確認、周知並びに職員研修の場として、四半期ごとに職員全体会議を開催し、円滑な施設運営と支援能力の向上のために資することができた。また、日常的・短期的な課題、行事等に関する協議、及び適切な利用者サービスや効率的な施設運営等のために、月1回管理運営会議を開

催した。なお、介護部においては、処遇方針の決定及び処遇方法等の意思統一のために主任副主任会議を月1回開催し、また、ケアの質の向上や個々の利用者に対する支援方法の周知等のためにグループ毎にケアワーカー会議を月1回開催した。

(3) 災害対策（資料 25）

火災、地震等の災害に備え、毎月1回利用者の避難訓練を実施するとともに、夜間の災害発生に備え、職員の緊急呼び出し訓練を実施した。また、大規模災害に備えて県及び市とメールによる被害状況等伝達訓練を実施した。

(4) 感染症予防対策

インフルエンザの集団発生を予防するため、利用者、職員ともほぼ全員に対し予防接種を実施するとともに、ノロウイルス等による感染症発生に対処するため、感染症対策委員会の増員や委員による研修を実施した。

これまでの対策に加え、毎朝5分全職員で手すり等の消毒を一斉に実施するなど、職員の意識を高めることができたが、結果的には、インフルエンザの集団感染が発生した。

(5) 各種行事（資料 24）

利用者に文化的な充足感を味わってもらうために、季節や風習を大切にされた各種行事を企画し、楽しく参加できるようにした。

(6) 委員会（資料 26）

各種専門委員会を開催し、利用者の安全の確保、利便・快適性の向上、楽しい施設生活の実現のために役立てた。

第3 部門別活動状況

1 事務部門

- ・顧問会計士及び社会保険労務士等との連携を密にし、コンプライアンス（法令遵守）とモラルの遵守を常に念頭に置き、また、法人内規則・規程の熟知を心掛け、正確かつ迅速な事務処理を行うよう努めた。
- ・各サービスとの情報連携、また、利用者支援の現場（各職種）で新たに導入した記録管理ソフトとの連携による実績管理、実費負担の算定を自動化することで請求業務の効率化を図ることを目的に、障害者総合支援管理支援請求システムの入れ換えを実施した。新システム導入当初、納入業者との間で設定調整にやや手間取ったものの、利用者負担金請求事務に関しては、請求誤り、利用料等の未収がないよう、請求・入金管理の徹底に努めることができた。
- ・予算の有効活用が図られるよう、職種間の連携に努めた。
- ・日用品、消耗品等の的確な購入・管理に努め、コストの低減に心掛けた。
- ・施設設備、器具、備品の資産管理と保守管理を徹底し、施設機能の維持に努めた。
- ・事務の煩雑化等に対処するため、OA機器を積極的に活用すると共に、機器が持つ機能を更に引き出すことで事務の効率化を図れるよう主眼を置いた。また、それらの活用方法、操作手順等について、職員間の情報共有にも取り組むことができた。
- ・新会計基準への移行準備をすすめた。

2 相談部門

相談援助や他部署との協働、個別支援計画の作成、預り金関係の適正な管理事務、他機関との連携、家族への連絡等、入所利用者の生活の質の向上に係る業務を主として実施した。

- ・ サービス管理責任者を中心に、個別支援計画に基づいたサービスの実現や評価等に努めた。
- ・ 個別支援計画の作成及びプランの確実な実現に向けて介護職員を支援した。
- ・ 利用者に必要な情報を適切な方法・わかりやすい表現を用いて提供し、利用者の意思を確認した。
- ・ 施設利用に際しては、利用者及び家族への十分な説明と情報の提供に努めた。
- ・ 意思決定能力の不十分な利用者に対して、常に最善の方法を用いて利益と権利を擁護するよう心掛けた。
- ・ サービス利用に伴う各種手続き等事務代行を的確に実施した。
- ・ 地域の貴重な社会資源として、施設機能の充実及び職員の資質の向上に努めた。
- ・ 地域のニーズに的確に応えるよう努めた。
- ・ 他施設、関係機関、関係団体等との情報の交換及び連携に努めた。
- ・ 利用者預り金等の適正な管理を実施した。
- ・ 利用者、家族からの記録等の開示の要求に積極的に応えた。
- ・ 利用者の自己決定を尊重し、利用者がその権利を十分に理解し、活用していけるように援助した。
- ・ 利用者の利益を最優先に考えた
- ・ 利用者のプライバシーを最大限に尊重するよう努めた。
- ・ 利用者や関係者からの情報の聴取は、業務上必要な範囲にとどめ、その秘密を保持した。
- ・ 利用者の援助のために利用者に関する情報を関係機関・関係職員と共有する場合、その秘密を保持するよう最善の方策を用いた。
- ・ 利用者を擁護し、あらゆる権利侵害の発生を防止するよう努めた。
- ・ 常に業務を点検、評価を行い、業務の改善に努めた。
- ・ 利用者預り金等の適正な管理に努めるとともに、利用者、家族からの状況報告の要請に随時に対応した。
- ・ 利用者のために成年後見人の選任が必要と判断した場合は積極的に、家族又は行政機関に働きかけをした。

3 介護部門

〈支援体制全般〉

各部署との連携、協力の下、利用者個々人に対しきめ細かな支援ができた。また、クラブ活動、リラクゼーション等の余暇、生きがい活動に関わる支援は、日中活動担当を中心に、グループ横断的に展開した。就労的要素のある作業創作活動では、個々の作業能力が十分活用できるよう工夫した。作業、創作活動に馴染みにくい利用者については、日常生活に楽しみや張り合いを感じてもらえるよう、ぼかぼか農園（果樹園、散歩道、畑）の活用に加え、ミュージックケアを実施し、心身に快い刺激を与え情緒の安定を図ることが出来た。

また、利用者の生活や人間関係が施設の中に留まらないよう、積極的に地域に出掛け、あるいは地域の方を招いて、多くの人とコミュニケーションが図れる機会を提供した。それにより地域交流の拡がりや光陽荘利用者に対する地域住民の理解を深めることができた。

ご家族には利用者の施設での生活状況を随時開示するとともに、必要に応じて個々の利用者の様子を連絡するなど良好な関係の維持に努めた。

昨年度、完了した記録管理システムの導入により、業務の効率化が図られ、各部署での情報の共有、データの管理、集計などに役立てられた。

〈職員の合意形成〉

利用者一人ひとりからニーズの聞き取りを行い、ケアプランを作成し、また、利用者懇談会等を通して、利用者の要望、意見を把握した。これをケアワーカー会議、ケアプラン会議、主任副主任会議においてコンセンサスを図り、利用者への支援の充実に繋げた。

〈苦情解決〉（資料 11）

苦情受付窓口を設置し、利用者からの苦情に真摯に対応するとともに、苦情解決第三者委員に対する報告の場を設け助言を受けた。

〈事故防止等〉（資料 18）

施設内の事故防止のため安全な動線の確保、適切な職員配置及びリスクマネジメントの徹底に努めた。身体拘束についてはご家族の同意を得たうえで緊急やむを得ない場合に限り行うこととし、極めて慎重に行うよう理解を徹底し、その廃止又は最小限の実施に努めた。虐待については障害者虐待防止法の理解と遵守を行った。虐待防止委員会では虐待に対する自己評価や意識調査を行った。

〈職員研修〉（資料 28）

利用者の障害特性を理解し、より適切な支援を行うために、職員の各種研修会への参加並びに施設内研修等を積極的に推進した。施設内研修では視覚障害のある利用者の方に寄り添いの支援が提供できるようアイマスク体験を行い見えないことの不自由さや必要な支援を再確認した。また、新人職員にはチューター制による相談相手のいる環境を作り、知識や技術を習得させ専門性を高めた。

〈平日の活動〉（資料 22）

平日は作業創作活動・リラクゼーション・クラブ活動など定番の活動を自己選択（意思表示のできない利用者へは職員が気持ちをくみ取り選択）し参加していただくとともに週末はフリータイムでのんびり自由に過ごす生活スタイルを基本とした。同時に、月単位、年単位でバラエティーに富んだ楽しみを用意することで、選択肢を広げ施設の中で画一的に暮らすことがないよう工夫できた。

〈希望外出〉（資料 23）

利用者一人平均月2回ほどのお出かけバスの外出とは別に、個別に希望された少し特別な外出により、非日常的な楽しい体験ができるようにその機会を提供した。利用者個々に年に2回は希望が叶えられるよう計画実施し喜ばれた。

<イベント・交流等> (資料 16・17・24)

納涼祭や収穫祭など、地域の方を多く招き交流を深めた。音楽クラブや和太鼓クラブは施設外での出演依頼も増え多くのイベントに参加することができた。利用者の社会参加や地域での認知度を高めることができている。

<作業・創作活動>

作業創作活動(平日の午前中)は、利用者の障害特性をふまえて、「働くこと」や「施設外交流」を意識して支援に努めた。出来上がった品物は利用者自らが販売に携わったり、活動開始前には利用者自身が作業場所へ移動するなど自主性や責任感も高まっている。自分の作った小物や農作物が売れる喜びを感じ、工賃を受けることが張り合いや励みに繋がっている。

<リラクゼーション>

作業創作活動に参加が難しい利用者は、平日の午前中、「ぼかぼか農園」に出掛け、草花や土風に触れながら散歩を楽しみ、体力増進や気分転換が図れた。農園で採れたブルーベリーなどその場でもぎ取って味わうなど季節感あふれる体験の機会が提供できた。なお、雨天時は、メンバーでカラオケを楽しむなど天候にかかわらず充実した支援を活発に展開している。

<その他基本的な生活支援>

- ・食事・入浴・排泄・整容等の基本的な生活並びに居住空間の掃除・整理整頓を常に心掛け、清潔で快適な生活が提供できる支援を行った。
- ・常に利用者の「人権」を尊重し、利用者が主体的に生きていけるよう、創意工夫をもって支援・介護を行った。
- ・利用者の心身の状況に応じた自立支援及び日常生活の充実のために、介護技術の向上に努めた。
- ・それぞれ利用者の障害特性をふまえ、常に創意工夫を意識して支援した。
- ・利用者一人ひとりからニーズの聞き取りを行い、アセスメントを作成、確実な個別支援計画の実施に努めた。
- ・毎月利用者懇談会を開催し、利用者の要望、意見を把握し、日常生活に反映させた。

4 医務部門 (資料 12・13)

- ・インフルエンザ集団発生では、マニュアルに沿って適切な感染症対策を実施した。拡大を防ぎきれなかったが、感染対策の指揮を取り、感染者に対しては直ちに受診に連れて行くなどして重症化を防いだ。
- ・利用者、職員の健康保持及び衛生管理に努めた。
- ・利用者、職員の健康管理のため、4月、11月の2回、健康診断を実施した。
- ・利用者の身体状況の変化や医療上の変化を的確に捉え、嘱託医、協力医療機関の協力を得て、疾病の予防と早期対応を図った。

- ・ 利用者が入院したときは、病院医療との緊密な連携の下にその支援に努めた。
- ・ 利用者の健康状況を常に掌握し、家族に対して必要な利用者の医療情報の積極的な提供に努めた。
- ・ インフルエンザワクチン等予防接種の実施並びにその他の感染症の予防に努め、感染症対策の充実を図った。
- ・ 投薬の管理等に細心の注意をもって当った。
- ・ 利用者の便秘による苦痛の軽減を図るため、自然排便の習慣付けを促進し、運動、水分、下剤の調節等について助言、支援を行った。
- ・ 嘱託内科医・精神科医の協力の下、適時適切な受診を行った。
- ・ 地域の病院施設連絡会に参加し、利用者に対するよりよいサービスの提供のための情報の収集に努めた。
- ・ 虫歯、歯周病等の予防と口腔機能の維持のため、歯科医師、歯科衛生士の協力を得て、口腔ケアに努めた。

5 調理部門（資料 24（3））

- ・ 美味しく食事ができるよう雰囲気づくりを行った。
- ・ 調理外部委託業者と協力して充実した食の提供に努めた。
- ・ 食を通して季節感を味わうことの出来るメニューの作成及び適温給食の提供に努めた。
- ・ リクエスト食を取り入れ、利用者一人ひとりが自分の選択により食事を楽しむ機会を増やした。
- ・ 職員リクエスト食を取り入れ、いつもとは違う献立内容を楽しむ機会を取り入れた。
- ・ 委託業者との合同による給食会議を開催し、介護現場の意見、利用者の希望が反映できる充実した食事サービスの提供に努めた。
- ・ 委託会社からの提案も流動的に取り入れ、食事について一緒に取り組むという心構えを持つ機会を取り入れた。
- ・ 嗜好調査を実施し、嗜好に沿った食事サービスの提供に努めた。
- ・ 医務室との連携の下、利用者の健康診断結果を踏まえて食事内容を調整した。
- ・ 普段の食事の様子から、利用者が食べやすいと思われる提供方法の工夫を、ワーカー・歯科衛生士・医務と話し合いの上で行うことができた。
- ・ 常に衛生管理に配慮し、食中毒の未然防止を図った。
- ・ 栄養ケアマネジメントを行い、個々の栄養状態・身体状況に合わせたプランを作成し、健康状態の維持・向上に努めた。

第4 短期入所事業

地域での在宅生活が続くことができるように、短期入所利用者のニーズに適切に応えた。他事業所と併用して利用される方が増えたため、情報の収集や共有など連携をしながら、スムーズな受け入れやよりよいサービス提供に努めた。ご家族の入院等、緊急を要する支援にも行政、他事業所と連絡調整を行い、柔軟に対応することができた。利用者への支援はもちろん、介護者であるご家族の介護量の負担軽減にも役立てた。平日は他事業所の通所を基本にされている方の週末利用の要望が重なるが、スケジュールを調整しなるべく公平に利用していただいている。

また、施設内で感染症が発生した2月中旬～3月上旬にかけてはやむを得ず利用を中止していただいたことや平成17年から継続利用していた利用者の契約終了などもあった。そのような状況ではあったが利用率は少し上昇した。また、利用率については生活介護を定員を超えて受入をしていることもあり、二つの事業を合わせて考えている。

(資料 20)

[日中一時支援事業：障害者総合支援法に係る菊川市・掛川市委託事業]

障害児(者)の日中の生活を一時的に確保する場とし、市町から委託を受け地域生活支援を行う。

平成26年度における通所希望者については、同じサービス内容の生活介護を利用してもらうことでニーズに応えられていたが、生活介護の要件に該当しないケースの場合は、日中一時支援の利用も考えていく。

第5 共同生活援助事業「グループホームたんぼぼ」

グループホームにおいては職員のサポートを受けながら家庭的な生活を送れるよう支援した。自分の空間(個室)ではプライバシーに配慮された自由な時間が確保され、共有スペースにおいては団欒の時間を楽しむことができるよう配慮した。

日中活動では、平日は光陽荘の「生活介護」を利用し、光陽荘入所者と同様の活動を楽しみ、週末や帰宅後は「たんぼぼ」独自の外出やイベントを企画・実施するなど、幅広い活動参加や潤いのある生活を送ることができた。なかでも、季節を感じられるジャム作りや梅干し作りなどは利用者からも好評であり、楽しみにされている。また、日本平動物園への一日旅行も計画した。

サービス管理責任者(光陽荘兼務)を配置し、個別支援計画に基づいたサービスの実現や評価等に努めた。

<各種活動支援>

① 日中活動

バックアップ施設である光陽荘生活介護サービスの、作業創作活動、及びクラブ活動、各種行事等に利用者個々人の希望に合わせ参加した。

季節行事・イベントは光陽荘の行事に参加した。

② 食事

利用者が世話人等の支援を得て、計画・調達・調理した。また、必要に応じて光陽荘調理室が支援した。

③ 健康管理

定期健康診断を光陽荘利用者に合わせて年2回実施した。必要な受診についても付き添い等の支援を行った。なお、歯科検診及び歯科衛生士による口腔ケアについても、光陽荘利用者と同様に行なった。

④ 余暇活動

日々の生活において生きがいをもって豊かに過ごせるよう、余暇の過ごし方を利用者が中心となってつくりあげた。世話人等はこれを積極的に支援した。

また、外出を積極的に行い地域の催しに参加するなど、地域住民との接触に努め、地域居住者としての意識を持てるよう支援した。

⑤ 災害、防災

ホームスプリンクラー及び自動火災報知設備、インターホーン、非常呼び出しセンサー等の設備に加えて、夜間支援従事者を配置することにより、災害・防災体制の万全を図った。加えて、常に光陽荘との連携を図った。また、地元自治会が実施する地域防災訓練にも参加した。

⑥ 苦情相談・解決

光陽荘と共通の苦情相談窓口・体制において真摯に対応するとともに、苦情解決第三者委員に対する報告の場を設け助言を受けた。

⑦ 金銭管理

利用者等から預託された金銭及び各種書類の扱い及び利用者及び家族等への報告等については、光陽荘と同様の取り扱いをした。

⑧ 夜間支援体制

夜間から早朝にかけて、夜間支援従事者1名を配置した。また、世話人等と協力し夕食・朝食の調理・介助、入浴・排泄の介助、洗濯、居室・衣類等の整理整頓など各種の支援を行なった。

第6 特定相談支援事業「光陽荘障害者相談センターすてっぷ」

障害福祉サービスを希望する障害者の要請に応じて、サービス等利用計画案の作成を行った。入所利用者に加え、行政より依頼を受けた地域で暮らす障害者のサービス等利用計画案の作成も行い、地域における相談支援のニーズにもできる限り応えた。

また、近隣の相談支援事業所及び行政の集まりである東遠地区自立支援協議会相談部会に出席し、他の事業所と情報交換をするなど地域の実情や課題についての把握や連携に努めた。

サービス等利用計画案の作成実績

種 別	平成26年度	平成25年度
サービス等利用計画案	13件	22件
モニタリング報告書(サービス利用計画の見直し)	48件	2件

資料編

(平成26年度/平成27年3月31日現在)

光 陽 荘

- 1 障害程度区分別利用(入所)者数
- 2 年齢別利用(入居)者数
- 3 利用(入居)者平均年齢
- 4 在所期間別利用(入居)数
- 5 食事介助状況者数
- 6 入浴介助状況者数
- 7 排泄介助状況者数
- 8 面会状況
- 9 帰省(外泊)状況
- 10 入居・退去状況
- 11 苦情受付状況
- 12 他医療機関への受診状況(述べ人数)
- 13 入居者・利用者医療状況
- 14 所在状況
- 15 入居申込み(待機者)状況
- 16 ボランティア(余暇支援)状況
- 17 ボランティア(奉仕)状況
- 18 事故調査状況
- 19 実習状況
- 20 短期入所利用状況 生活介護利用状況
- 21 施設入所利用状況 ケアホーム利用状況
- 22 全体的支援の状況
- 23 個別的支援の状況
- 24 行事の状況
- 25 避難防災訓練の状況
- 26 各種専門委員会の状況
- 27 家族会との連携状況
- 28 職員研修状況
- 29 職員被表彰者の状況
- 30 協力医療機関・通院機関の状況

I. 利用実績

1 障害支援区分別利用(入所)者数

光陽荘

(平成27年3月31日現在)

	区分1・2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性	0	0	0	0	22	22
女性	0	0	0	3	25	28
合計	0	0	0	3	47	50
割合(%)	0.0%	0.0%	0.0%	6.0%	94.0%	100.0%
平均障害支援区分	5.94 (男性 6.00 女性 5.89)					
平成25年度	5.96 (男性 6.00 女性 5.93)					

たんぽぽ

(平成27年3月31日現在)

	区分1・2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性	0	0	0	0	1	1
女性	0	0	0	3	1	4
合計	0	0	0	3	2	5
割合(%)	0.0%	0.0%	0.0%	60.0%	40.0%	100.0%
平均障害程度区分	5.40 (男性 6.00 女性 5.25)					
平成25年度	5.40 (男性 6.00 女性 5.25)					

2 年齢別利用(入居)者数

光陽荘

(平成27年3月31日現在)

	20歳以下	21歳～30歳	31歳～40歳	41歳～50歳	51歳～60歳	61歳～64歳	65歳～69歳	70歳以上	80歳以上	合計
男性	0	2	1	12	4	0	2	1		22
女性	0	0	0	10	8	5	3	1	1	28
合計	0	2	1	22	12	5	5	2	1	50

(平成26年3月31日現在)

	合計
男性	22
女性	28
合計	50

たんぽぽ

(平成27年3月31日現在)

	20歳以下	21歳～30歳	31歳～40歳	41歳～50歳	51歳～60歳	61歳～64歳	65歳～69歳	70歳以上	80歳以上	合計
男性	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
女性	0	0	0	2	1	0	0	1	0	4
合計	0	0	0	3	1	0	0	1	0	5

(平成26年3月31日現在)

	合計
男性	1
女性	4
合計	5

3 利用(入居)者平均年齢

光陽荘

(平成27年3月31日現在)

	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	49.2	23	78
女性	55.9	41	83
合計	52.9		

(平成26年3月31日現在)

	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	48.1	22	77
女性	55.7	40	82
合計	52.4		

たんぽぽ

(平成27年3月31日現在)

	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性(1人)	47.0		47
女性(4人)	55.3	47	70
合計	53.6		

(平成26年3月31日現在)

	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	46.0		46
女性	54.3	46	69
合計	52.6		

4 在所期間別利用(入居)数

光陽荘

(平成27年3月31日現在)

	1年未満	1年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年～20年未満	20年以上	合計	平均在所期間
男性	0	3	4	4	0	11	22	
女性	1	2	2	3	5	15	28	
合計	1	5	6	7	5	26	50	17年4か月

	1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～7年未満	7年～9年未満	9年以上	合計	平均在所期間
男性	0	0	0	0	0	1	1	
女性	0	0	1	0	0	3	4	
合計	0	0	1	0	0	4	5	9年4か月

5 食事介助状況者数

(平成27年3月31日現在)

区分	人数	割合
全面介助者	7	14.0%
一部介助者	40	80.0%
介助なし	3	6.0%

(平成26年3月31日現在)

区分	人数	割合
全面介助者	7	14.0%
一部介助者	40	80.0%
介助なし	3	6.0%

6 入浴介助状況者数

(平成27年3月31日現在)

区分	人数	割合
特別浴	2	4.0%
個浴	11	22.0%

(平成26年3月31日現在)

区分	人数	割合
特別浴	1	2.0%
個浴	10	20.0%

7 排泄介助状況者数

(平成27年3月31日現在)

区分	人数	割合
おむつ使用者	5	10.0%
紙パンツ又はトイレ介助者、 ポータブルトイレ使用者	41	82.0%
見守り	4	8.0%

(平成26年3月31日現在)

区分	人数	割合
おむつ使用者	5	10.0%
紙パンツ又はトイレ介助者 ポータブルトイレ使用者	41	82.0%
見守り	4	8.0%

8 面会状況

(平成26年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	38	41	25	53	2	26	51	34	27	23	8	33	361人
1日平均人数	1.3	1.4	0.8	1.7	0.1	0.9	1.6	1.1	0.9	0.7	0.3	1.1	

9 帰省(外泊)状況

(平成26年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	2	7	0	4	5	0	2	1	10	12	2	2	47人
日数	3	19	0	12	28	0	2	3	36	38	0	4	145日

10 入居・退去状況

(平成26年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成25年度
入居者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
退去者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
月末在籍者数	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	600	600

11 苦情受付状況

1) 苦情受付件数

(平成26年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成25年度
苦情受付件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3件	14件

2) 苦情の分類一覧 (平成26年度)

苦情の分類	件数
ケアの内容に関わる事項	0
個人の嗜好・選択に関わる事項	0
他の利用者・職員に関わる事項	2
面会者に関わる事項	0
財産管理等に関わる事項	0
施設内規に関する事項	0
その他	1
合計	3

※全て利用者より受付

(平成25年度)

苦情の分類	件数
ケアの内容に関わる事項	5
個人の嗜好・選択に関わる事項	0
他の利用者・職員に関わる事項	9
面会者に関わる事項	0
財産管理等に関わる事項	0
施設内規に関する事項	0
その他	0
合計	14

12 他医療機関への受診状況(述べ人数)

(平成26年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内科	1	2	7	10	1	5	1	4	4	9	37	6	87
精神科				2	1	1		4	4	1		2	15
脳外科	1			1	1	2	3		2				10
整形外科		4	1	3	2	2				1	2	5	20
外科								1		1	5	1	8
泌尿器科	1	2	2	2	3	5	8	5	7	2	2	3	42
眼科	3	1	3	2	2	5	2	2	4	3	3	3	33
皮膚科	6	6	1		1	2	4	4	2				26
耳鼻科	2	2	3	3	2	2	2	2	2	2	1	2	25
歯科	6	3			1	1	2	2		1		1	17
婦人科	1			1			1	1	1	1		1	7
循環器科													0
合計	21	20	17	24	14	25	23	25	26	21	50	24	290

嘱託医による受診(往診)状況(述べ人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内科	29	43	26	25	25	27	22	21	24	27	28	35	332
精神科	26	26	26	26	26	26	26	26	26	27	27	28	316
合計	55	69	52	51	51	53	48	47	50	54	55	63	648

13 入居者・利用者医療状況

1) 入院状況

(平成26年度)

治療科	人数	治療科	人数	平成25年度
内科	5	泌尿器科		1
精神科	1	整形外科		
眼科		口腔外科		
脳外科				

2) 処置状況

(平成27年3月31日現在)

処置状況	人数	処置状況	人数
経口与薬	42	経管栄養	0
(タミフル与薬)	25	酸素吸入	0
創傷処置	随時	浣腸、摘便	7
軟膏塗布	随時	湿布等(痛み緩和剤)	1
点眼	5		

14 所在状況

(平成27年3月31日現在)

市町名	在籍者数	入所・退所状況		平成26年3月31日現在			市町名	在籍者数	入所・退所状況		平成26年3月31日現在		
		入居	退去	在籍者数	入所	退所			入居	退去	在籍者数	入所	退所
下田市	1			1			焼津市	3			3		
南伊豆町	1			1			藤枝市	4			4		

松崎町	1			1			牧之原市	2			2		
伊東市	1			1			吉田町	1			1		
沼津市	2			2			川根本町	1			1		
三島市	1			1			浜松市	5			5		
伊豆氏	1			1			磐田市	2			2		
伊豆の国市	1			1			掛川市	3			3		
清水町	0	1		1			湖西市	1			1		
御殿場市	1			1			森町	1			1		
富士宮市	1			1			神奈川県横須賀市	1			1		
富士市	2			2			東京都足立区	1			1		
静岡市	6			6			岐阜県大野町	1			1		
島田市	4			4			御前崎市	1	1		0		
合 計								50人	0人	0人	50人	0人	0人

15 入居申込み(待機者)状況

(平成27年3月31日現在)

市区町名	申込者数	平成26年3月31日現在	市区町名	申込者数	平成26年3月31日現在
菊川市	1	1	愛知県岡崎市	1	1
御前崎市	2	3	浜松市中区	1	1
浜松市天竜区	1	3	磐田市	2	2
神奈川県横須賀市	1	0	浜松市浜北区	1	1
東伊豆町	1	0	静岡市葵区	0	1
静岡市清水区	1	1	合 計	12人	14人

16 ボランティア(余暇支援)状況

(平成26年度)

月 日	団体名(代表者名)および個人名	人数	内 容
9月24日	もみじの会	20名程度	詩吟・歌披露
11月1日	VIVACHE	3名	秋の収穫祭にてバンド演奏披露

17 ボランティア(奉仕)状況

(平成26年度)

団体名(代表者名)および個人名	内 容	年間日数	実人数	活動日
家族会	施設整備(農園の草取り)	1	29	5月25日
市民	散歩付き添い	17	1	定期(月1~2回)
市民	創作活動手伝い	36	1~3	定期(週2~3回)
市民	通院の送迎	54	2	定期(1人月2~5回)
市民	縫物	6	2	定期(2ヶ月1回)
常葉学園菊川高校 美術デザイン科	ガラス絵描写	1	7名	1回(シーズン毎)
小学生 (ボランティア体験)	創作活動・リラク ゼーション(散歩等)	8	11	夏休み
小笠高等学校	運動会	1	1	10月4日
専門学校生・職員家 族	納涼祭模擬店	1	11	7月26日
小学生・中学生 (ボランティア体験)	創作活動・リラク ゼーション(散歩等)	6	7	冬休み
家族	焼き芋作り	1	1	11月26日
家族	施設・農園の草取り等	25	4	随時
合 計		157	69	

平成26年度 合 計 年間日数 157人 年間人数 69人

その他協力者(ボランティア・販売)

団体名(代表者名)および個人名	内容	年間延回数	実人数	活動日
岡田先生	音楽指導・ピアノライブ	43	1	月曜日・イベント時
駄菓子やっこ	駄菓子の販売	20	2	第1・第2水曜日
中村美容室	散髪	21	2	第2・第4月曜日
友の輪商事	車椅子点検・販売	12	1	第2月曜日
草笛	パン販売	11	1	第1月曜日
点訳サークル泉	点字指導・交流	10	10	第4月曜日
	合計	117	17	

その他協力者(寄付者)

寄付者	寄付金品名	寄付日
明るい社会づくり運動菊川協議会	タオル300枚	11月21日
その他(一般)	冷蔵庫・電子レンジ	5月23日
利用者家族	金1,000,000円	3月13日
	その他の寄付金品	点字本・点字カレンダー他

* 16・17について、敬称を省略

18 事故調査状況

(平成26年度)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
怪我	転倒	3	2	1	3	1	2	1	0	2	3	1	9	28
	転落・滑落	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	3
	摩擦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	衝突	0	0	0	0	1	1	0	1	2	0	1	0	6
食物	誤嚥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	異食・誤飲	0	0	0	1	1	1	0	0	1	0	0	2	6
	経管栄養	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
薬	誤薬	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
	投薬忘れ	3	0	1	0	0	2	0	3	0	2	0	1	12
	内服薬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	配薬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ケア	爪切り	0	1	0	1	1	0	0	0	2	0	0	1	6
	ケア提供	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	ショート忘れ物	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
物損	私物紛失	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	3
	物損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	利用者同士のトラブル	2	0	5	3	1	1	2	5	3	1	2	2	27
														0
	その他	1	5	3	3	5	3	6	5	4	2	2	2	41
	合計	10	8	10	11	12	10	11	14	15	10	9	19	139

19 実習状況

(平成26年度)

学校名等	実習名	年間延日数	実人数	平成25年度	
静岡福祉大学	介護福祉実習	140	8	118	7
東海福祉専門学校	介護実習	30	3	20	2
静岡歯科衛生士専門学校	臨地実習(歯科衛生士養成課程)	6	2	6	2
浜松大学	臨地実習(管理栄養士養成課程)	5	1	0	0
	合計	181日	14人	144日	11人

介護等体験

(平成26年度)

学校名等	実習名	年間延日数	実人数	平成25年度	
静岡大学	介護等の体験(教諭免許状許可に係る体験)	0	0	0	0
池新田高校	職場体験	0	0	0	0
岳洋中学	福祉体験	2	30	2	15
	合計	2日	30人	2日	15人

20 短期入所利用状況 生活介護利用状況

短期入所

(平成26年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成25年度
利用者人数	11	14	11	10	11	9	11	12	9	12	4	11	125人	129人
延べ利用日数	74	91	74	63	77	90	92	98	79	87	37	53	915日	853日
1日平均	2.5	2.9	2.5	2.0	2.5	3.0	3.0	3.3	2.5	2.8	1.3	1.7	2.5人	2.3人
利用率	61.7%	73.4%	61.7%	50.8%	62.1%	75.0%	74.2%	81.7%	63.7%	70.2%	33.0%	42.7%	62.7%	58.4%

生活介護

(平成26年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成25年度
利用者人数	66	68	67	62	66	64	63	67	63	68	59	65	778人	790人
延べ利用日数	1,267	1,327	1,269	1,266	1,306	1,267	1,331	1,270	1,301	1,285	1,075	1,299	15,263日	15,379日
1日平均	57.6	57.7	57.7	55.0	56.8	57.6	57.9	57.7	56.6	55.9	53.8	56.5	56.7人	57.0人
利用率	115.2%	115.4%	115.4%	110.0%	113.6%	115.2%	115.7%	115.5%	113.1%	111.7%	107.5%	113.0%	113.5%	114.3%

21 施設入所利用状況 グループホーム利用状況

施設入所

(平成26年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成25年度
利用者人数	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	600人	600人
延べ利用日数	1,497	1,531	1,500	1,494	1,522	1,491	1,548	1,484	1,493	1,473	1,342	1,534	17,909日	18,066日
1日平均	49.9	49.4	50.0	48.2	49.1	49.7	49.9	49.5	48.2	47.5	47.9	49.5	49.1人	49.5人
利用率	99.8%	98.8%	100.0%	96.4%	98.2%	99.4%	99.9%	98.9%	96.3%	95.0%	95.9%	99.0%	98.1%	99.0%

グループホーム

(平成26年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成25年度
利用者人数	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60人	60人
延べ利用日数	150	155	150	149	155	150	155	150	155	153	140	155	1,817日	1,816日
1日平均	5.0	5.0	5.0	4.8	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.9	5.0	5.0	5.0人	5.0人
利用率	100.0%	100.0%	100.0%	96.1%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.7%	100.0%	100.0%	99.6%	99.5%

2.2 全体的支援の状況

(1) 作業創作活動（工賃を支払う活動）

活動名	内容	活動日	人数
作業・創作活動	洗濯たたみ・畑・エプロン畳み・ゴミ集め・おしぼり作り・作品作り	(月)～(金) 午前中	20人
コーヒー喫茶	コーヒー販売（喫茶店形式）	月1回	6人

(2) クラブ活動及びその他の活動

クラブ名	内容	活動日	人数
音楽クラブ	パート、曲の練習・ 行事、コンサートへの参加	第1月曜日PM	16人 (主な演奏者7人)
和太鼓クラブ	基本打ちの練習・納涼祭参加・ コンサートへの参加	第1月曜日PM	14人
クッキングクラブ	おやつ・料理・飲み物作り他	第3月曜日PM	22名
スポレククラブ	練習・試合・ゲーム	第2月曜日PM	全利用者
点字クラブ	点訳サークル泉との交流 点字・平仮名の練習	第4月曜日PM	13人
生花クラブ	花器選び・リース・ フラワーアレンジメント	第5月曜日PM	11人
リラクゼーション	ぽかぽか農園・散歩・音楽鑑賞・朗 読・野菜の収穫	(月)～(金) 午前中	38人
懇談会	行事予定の説明・連絡・話し合い	第4水曜日PM	自由参加 25名程度
買い物・ドライブ	買い物・ドライブ <行先> 菊川市内・掛川・牧之原・島田・御 前崎等	木曜日 午後	全利用者 約20人/回 1人平均 2回/月

2.3 個別的支援の状況

(1) 一般外出等

内容	回数	人数
個別支援外出（買い物・外食・協力病院以外の通院等）	随時	希望者
散髪（理髪店での散髪希望者）	26便	60人/延

(2) 希望外出

実施日	プラン名	行先	人数
5月31日	個別支援 海援隊トークライブ	菊川文化会館アエル	2名
6月5日	希望外出 天浜線貸切列車の旅	掛川駅～天竜二俣駅間	13名
6月19日	希望外出 ラーメン	五味八珍菊川店	4名
6月26日	個別支援 回転寿司	かっぱ寿司菊川店	4名
7月14日	個別支援 バイクینگ	おひさま食堂（吉田町）	6名
8月3日	個別支援 『しゃべる貯金箱づくり』	青葉コミュニティセンター	1名

8月21日	個別支援	バーベキューで夏を楽しむ	施設内中庭にて	9名
9月11日	希望外出	明治製菓と海鮮ランチ	明治東海工場 味わい処 座楽（藤枝）	12名
9月17日	個別支援	流しそうめん	施設内交流室にて	3名
9月18日	個別支援	居酒屋	扇屋菊川店	1名
9月18日	個別支援	ラーメン	五味八珍菊川店	4名
9月25日	個別支援	ラーメン	五味八珍菊川店	3名
9月29日	希望外出	浜名湖ボートレースと鰻を食す	浜名湖競艇場	7名
10月23日	個別支援	回転寿司	魚河岸寿司菊川店	7名
10月29日	個別支援	地場産ヘルシーバイキング	どんどこ浅羽	4名
11月 2日	個別支援	ハンバーガー	モスバーガー	1名
11月 6日	個別支援	ボウリング	掛川毎日ボウル	2名
11月13日	個別支援	母を訪ねて 思い出の生家 周辺へ行く	小笠老人ホーム・自宅周辺	1名
11月20日	個別支援	炭焼きハンバーグ	炭焼レストランさわやか菊川店	4名
11月20日	個別支援	ファミリーレストラン	ココス菊川店	5名
12月 1日	個別支援	ラーメン	こだわりラーメン若虎（掛川）	1名
12月18日	個別支援	カレー専門店へ行く	インドカレーとナンの専門店 ビニータ（掛川）	4名

(3) 歯科検診・口腔ケア

4月	口腔ケア	39人	10月	口腔ケア	39人
5月	口腔ケア	39人	11月	口腔ケア	39人
6月	口腔ケア	39人	12月	口腔ケア	39人
7月	口腔ケア 歯科検診	39人 52人	1月	口腔ケア	39人
8月	口腔ケア	39人	2月	口腔ケア	30人
9月	口腔ケア	39人	3月	口腔ケア	39人

2.4 行事の状況

(1) 光陽荘・たんぽぽ

4月	たんぽぽ開設記念日祝10周年・お花見（掛川グランドホテル）・健康診断・家族会総会・リネン交換
5月	菖蒲湯・端午の節句・新茶と草餅を楽しむ会・家族会奉仕作業
6月	牧之原音楽マラソン（バンドドロップス出演）・昼食バイキング
7月	光陽荘開設記念日祝24周年・七夕・普通救命講習（一般講習AED・心肺蘇生法）・納涼祭

8月	ミニビアガーデン
9月	総合防災訓練・町部地区文化展見学（和太鼓 光 出演/創作品販売）・もみじの会（歌披露）
10月	運動会・秋祭り・視覚障害者親の会（活動見学）・ふれあい広場（創作品出展販売・バンドドロップス出演）
11月	秋の収穫祭（芋煮&ミニコンサート）・岳洋中学福祉体験（合唱等披露）・健康診断・焼き芋大会・第39回クリスマスチャリティー公演劇団四季ミュージカル『ふたりのロッセ』（日産労連静岡地方協議会ご招待）・東遠祭り（和太鼓 光 出演/創作出店）
12月	障害者週間カレー作り・たんぼぼ地域防災訓練参加（おまつり広場）・衆議院総選挙/最高裁判所裁判官国民審査の不在者投票・ゆず湯・クリスマス会
1月	新年祝賀会・七草粥・もちつき大会
2月	節分・バレンタインデー・菊川市社会福祉大会・東遠地区保健福祉研修会
3月	雛まつり・ホワイトデー・お汁粉を楽しむ会・スポレク大会・さくら咲く音楽会（ドロップス&光コラボ出演）
毎月	懇談会・喫茶・駄菓子販売・パン販売・散髪・ピアノライブ・掛川市役所創作販売『よってっ亭』、法人販売（納品）

(2) たんぼぼ独自の活動

4月	たんぼぼ開設記念日10周年
5月	いちごジャムづくり
6月	梅干しづくり
11月	日帰り旅行（日本平動物園）
12月	地域防災訓練参加（おまつり広場）
	忘年会
毎月	懇談会・防災訓練・（避難訓練・インターホン訓練等）

(3) 選択食・行事食の提供

	選択食内容	その他 行事食
4月	サーモンフライ 鶏とごぼうのつくね (18日)	たんぼぼ10周年記念弁当 (1日)
5月	ビビンバ丼 牛丼 (27日)	こどもの日 寿司・柏餅 (5日) パンバイキング (18日)
6月	豚キムチ 蒸し鶏のポン酢ジュレ夏野菜添え (28日)	昼食バイキング (18日)
7月	あじフライ 夏野菜とゆで豚の香味ソース (31日)	開設記念日 (1日) 七夕 七夕そうめん (2日) 納涼祭 (26日)
8月	小松菜のせ焼き肉丼 さんまかば焼き丼 (29日)	ミニビアガーデン (20日)
9月	酢豚 鮭の味噌バター焼き (24日)	選べるトッピングうどん (30日)
10月	カツ丼 中華丼 (27日)	運動会弁当 (4日)

11月	エビフライ 豚カツ (19日)	手打ちそば (19日)
12月	クリスマス選択食 ＜主食＞エビピラフ 白米 パン ＜主菜＞ローストチキン 鮭のクリーム煮 チーズインハンバーグ (24日)	カレー作り (3日) 大晦日年越しそば (31日)
1月	あじフライ 豚とホタテのシューマイ (28日)	正月メニュー (1日～3日) 七草粥 (7日) もちつき大会 (21日)
2月	鉄火丼 焼き肉丼温泉卵のせ (25日)	節分 助六寿司 (2日)
3月	アジの大葉梅肉フライ 若鳥のオープン香草焼き (30日)	ひなまつり ちらし寿司 (3日) 寿司バイキング (25日)

2.5 避難防災訓練の状況

	内 容
4月	新人職員への防災マニュアル説明会・防災点検
5月	夜間火災想定避難誘導訓練・防災設備取扱・防災点検
6月	夜間火災想定避難誘導訓練・防災設備取扱・防災点検
7月	救急救命講習（消防署員による心肺蘇生、AED取り扱い指導）・防災点検
8月	夜間火災想定避難誘導訓練・防災設備取扱・防災点検
9月	総合訓練（地震予知非常呼び出し訓練・日中地震、火災想定避難誘導訓練、自主防災隊活動・炊き出し訓練）・防災設備取扱・防災点検
10月	夜間火災想定避難誘導訓練・防災設備取扱・防災点検
11月	福祉施設防災の日（日中地震想定避難誘導訓練・自主防災隊活動・防災設備取扱・防災点検）
12月	消防署通報訓練・防災点検
1月	夜間想定避難誘導訓練・防災設備取扱・防災点検
2月	防災点検（感染症対策のため訓練中止）
3月	夜間伝達訓練・防災点検

2.6 各種委員会の状況

委 員 会 名		
リスクマネジメント	職員研修（全体）	あい通信（施設広報誌）
身体拘束解消	新人職員研修	施設整備・備品点検
虐待防止	チューター	防災
感染症対策	処遇向上（介護職員勉強会）	身だしなみ・清潔
衛生・清掃	懇談会	
＜特別プロジェクト＞ 保健福祉研修会運営委員会		

2.7 家族会との連携の状況

	内 容
4月	家族会総会及び互助会全体会・第1回役員会
5月	施設整備事業（ぼかぼか農園草取り）・第2回役員会
7月	納涼祭・バザー・第3回役員会
10月	運動会
11月	収穫祭
12月	第4回役員会
3月	第5回役員会（総会準備）
随時	有志による施設、農園の整備

2.8 職員研修状況

主催・研修先	研修名
全国身体障害者施設協議会	研究大会
東海北陸地区ブロック	研究大会
福祉サービス検討委員会	年3回定例
全国盲重複障害者福祉施設研究協議会	研究大会・運営委員会及び施設長セミナー・職員研修
東遠地区施設連絡会	施設見学・職員研修（3回）・保健福祉研修会（当番施設）
静岡県社会福祉協議会	新任職員研修（Ⅰ）・福祉職のための文章力向上講座・「社会福祉施設における人事・労務管理」基礎編・「いつもの会議」をより良いものにする秘訣とは・感染症講座（初級編）・コミュニケーション技法講座（基礎編）・福祉サービス苦情解決研修会・コミュニティーソーシャルワーカー養成研修・成年後見制度を理解するために・リスクマネジメント講座
静岡県	総合防災訓練視察・平成26年度災害時要援護者支援研修会・障害者総合支援法事業者説明会
静岡県給食協会	栄養士研修会
菊川市消防署	甲種防火管理（新規）資格取得講習会・心肺蘇生法講習（救急隊来荘）
菊川市社会福祉協議会	福祉施設等ボランティア担当者会
その他	ミュージックケア初級研修・衛生管理者能力向上教育（初任時）・「セルフケア研修」及び「ラインケア研修」
法人内研修	職場のコミュニケーションとリーダーシップについて・排泄介護の基礎知識と技術
経理・事務関係	社会福祉施設経営者協議会総会・研修会・社会福祉法人新会計基準経理研修会・介護保険サービス提供事業者説明会・社会福祉法人決算実務講座・社会福祉法人監事監査研修会・不在者投票施設事務研修会・福祉医療機構・県共済会の退職共済制度説明会・基準経理研修会
職員の資質向上、スキルアップ及び制度に対する理解、把握のために各種研修に積極的に参加、施設内研修の充実に努めた。	

29 職員被表彰者の状況

団体名	種類	人数
全国身体障害者施設協議会	永年勤続表彰 15 年	0 名
東海北陸身体障害者施設協議会	永年勤続表彰 10 年	3 名
静岡県社会福祉協議会会長表彰	社会福祉功労者県社協会会長表彰 15 年	2 名
全国盲重複障害者福祉施設協議会	永年勤続表彰 10 年	0 名
菊川市社会福祉協議会会長表彰	社会福祉功労者市社協会会長表彰 10 年	0 名

30 協力医療機関・通院機関の状況

区分	医師名（所属）・病院名
嘱託医（内科）	笹山可則医師（掛川北病院）
嘱託医（精神科）	野島秀哲医師（岡本クリニック）
協力医療機関	菊川市立総合病院・甲賀歯科医院
産業医	笹山可則医師（掛川北病院）
通院機関	菊川市立総合病院・川口会病院・菊川眼科・御前崎病院・あかつちクリニック・甲賀歯科・加藤歯科・杉原脳外科・くにお皮膚科・石崎耳鼻科・うちだクリニック等